

香川県で開発

周産期管理の

システム紹介

松山で情報通信懇

四国情報通信懇談会の総
会と記念講演会が26日、松
山市内のホテルであった。

総会で副会長に選任された
香川大瀬戸内圏研究センタ
ーの原量宏特任教授らが講
演し、香川県で開発された
周産期管理システムの効果



周産期管理システムの
効果を紹介した香川大
瀬戸内圏研究センター
の原量宏特任教授

＝26日午後、松山市

などを紹介した。

原特任教授は、妊娠22週
から生後1週間までの間に
胎児と新生児が亡くなる周
産期死亡率は、最近2年連

続で香川県が全国で最も低
かったと説明。同県では出
産の監視装置を妊娠中から
継続的に利用し、リスクの
高い妊婦を事前に中核病院

に搬送するなどの対策を徹
底していると語った。

日本の高い技術を導入し
ている発展途上国の事例を
示し「全世界で周産期管理
のネットワーク構築を実現
したい」と訴えた。

総会には約140人が出
席し、情報通信技術（ICT）
を活用した地域課題の
解決に向けた取り組みや人
材育成など本年度の事業計
画を決めた。（和田亮）